

# ようこそ 図書館へ

第23号

2018年2月  
津市図書館



## おもな内容

P1～P2…暮らしに役立つ図書館講座を開催しました  
P3………知ろう私たちの郷土  
P4………図書館員のおすすめ本

## 暮らしに役立つ図書館講座

# 「子どもと本の心地よい居場所」を開催しました！

今年度の暮らしに役立つ図書館講座は、子どもと本を取り巻く環境が変化する中、子どもたちが本と出会う心地よい居場所とはどんな場所なのか、また、子どもと本に関わる私たちには何ができるのかを考える機会にしたいと「子どもと本の心地よい居場所」というテーマで児童図書館研究会三重支部にご協力いただき、4回の連続講座を開催しました。

図書館職員のほか、書店員、おはなしボランティア、保護者ボランティア、子育て中の方など様々な場面で本に携わっている方々が参加されました。



▲公共図書館、学校図書館、書店、公園などの良いところが一体となった理想の図書館像が完成しました。

# 暮らしに役立つ図書館講座 「子どもと本の心地よい居場所」を開催しました！

## 【第1回 学校図書館編】

第1回は、三重県内の高校で学校司書として長年勤務され、現在は皇學館大学の司書教諭課程で指導されている西岡博子さんにお話をいただきました。学校の中における図書館は、子どもたちの「居場所」として、とても重要であり、子どもたちが「宝島みたいな図書館」だと感じられるような、その学校やその子どもたちに合う学校図書館を作っていくことが大切である。そのためには「人」の存在が欠かせないと感じさせられるお話しでした。

## 【第2回 公共図書館編】

第2回は、多気町立勢和図書館司書の林千智さんにお話をいただきました。地域の人々と連携し、様々な活動を展開されている勢和図書館において、どのような考えで児童サービスを実施されているのかを伺いました。体験と読書をつなぐ活動や、過去と未来（世代と世代）をつなぐ活動を通じて、根っこになる部分と翼になる部分を育てることが、子どもたちの自立と共生を支えることにつながるというお話しに、司書としての責任を感じました。



## 【第3回 児童書専門店編】

第3回は、津市で児童書専門店「BookShop おはなしの森」を運営されている青沼洋子さんにお話をいただきました。書店を始められたきっかけや家庭文庫でもよいのではといった声に対して、文庫ではなく書店という形で子どもと本に関わりたいとの思いや、オープンまでの様々な苦勞、選書や棚づくりについての考え方などをお話をいただきました。講座の後半では乳幼児向けのおはなし会のプログラムの実践もあり、童心にかえって楽しい時間を過ごしました。

## 【第4回 ワークショップ編】

第4回は、三重短期大学附属図書館司書の中澤利美さんにお話をいただきました。ワークショップ形式により参加者は2つのグループに分かれ、3回目までの講座を振り返って、子どもと本の心地よい居場所とはどんな場所なのかアイデアを出し合いました。思いついたアイデアを付箋に書いて、どんどん模造紙に貼っていき、津市をモデルとした理想の図書館を考えました。模造紙にペーパークラフトや、イラスト、文字などで、出たアイデアを形にしていくことで、中にいる人やスペース、ひいては図書館の外の空間へもアイデアが広がっていきました。最後は理想の図書館像をそれぞれ出し合い、出たアイデアのひとつでも実現できるようにするには、自分たちに何ができるかを考え、講座は終了となりました。今回作成した理想の図書館像の模造紙は、津図書館の館

内で展示し、利用者に見ていただきました。参加者の方々からは「色々な立場の人の話を聞いて良かった」「子どもと本を取り巻く環境について考える良い機会になった」などの感想をいただきました。

図書館としましても、この4回の講座は、今後の運営に大いに参考になりました。またこのような機会が持てればと思います。



▲ペーパークラフトを使い立体的な楽しさを表現します。



# 知ろう私たちの郷土

齋藤拙堂の幼馴染で親友

塩田随齋①

『随齋詩鈔』

川上裕子

「齋藤拙堂は聞いたことはあるけど、塩田随齋って誰だろう？」

タイトルを見てそう思われた方もいるかと思います。齋藤拙堂と言えば、江戸時代の津で活躍した儒学者で、津の藩校有造館の教官(後に督学)として藩士の子弟の教育に、また政治家として活躍した人物として有名です。

一方の塩田随齋ですが、彼も拙堂と同じく漢学者で有造館の講官として教育に携っていました。

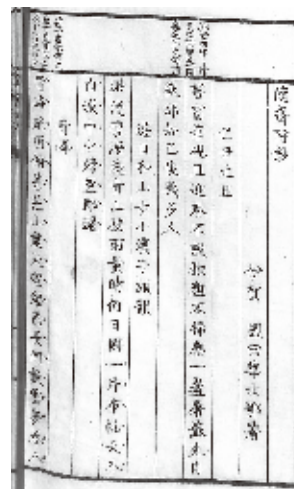
実はこの二人、生まれが一年違い、生まれた場所が同じ江戸の津藩邸ということもあってか仲が良く、親友と呼べる間柄だったそうです。さらに二人とも江戸の昌平黌に学び、古賀精里に師事していました。随齋が亡くなった時には拙堂は追悼文の中で「涙潸然」と悲しみを表しています。

さて、平成二十九(2017)年は拙堂の、平成三十(2018)年は随齋の、それぞれ生誕二百二十年記念の年にあたります。拙堂については津図書館の特別展示で取り上げましたので、ここでは今回と次回の二回に分けて、拙堂の親友であった随齋にスポットを当てたいと思います。

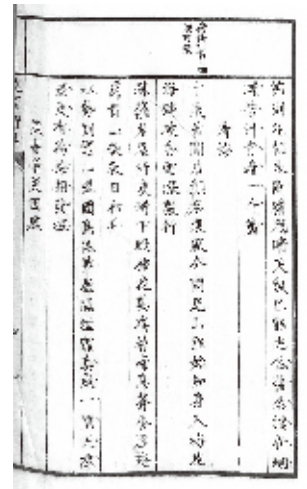
まずは、塩田随齋について簡単に紹介します。随齋というのは号で、本名を塩田重華、字を士鄂、通称を又之亟と言います。彼は寛政十(1798)年に江戸の藩邸で塩田重起の三男として生まれました。その先祖は伊賀の人で、代々津藩に仕えてきました。いくつかの資料に随齋が「伊賀の人」と書かれているのはそのためです。彼は三男でしたが、長男が早世し、次男が他家に行ったため跡を継ぐことになりました。江戸幕府の学校である昌平黌に入学して古賀精里に学び、文政八(1825)年に藩校の講官に任じられて津に引っ越して来て、以来八年間津で藩士の子弟の教育に携いました。文政十(1827)年に文学曹長に任じられて藩主の侍読となりましたが翌年に辞職し、その後天保三(1832)年に江戸藩邸の講官に転じて江戸に帰りました。そして弘化二(1845)年、四十八歳でこの世を去りました。

また、彼は漢詩人でもあり、その作品集の一つとして、津市津図書館「橋本文庫」所蔵の『随齋詩鈔』(橋L91.9-47)があります。これは、随齋の作った漢詩を集めたもので、随齋の死後一年経ってから刊行されました。序文を

拙堂が書いています。ここには、正月の風景や旅行で訪れた場所のことなどを題材にして作られた漢詩が約百以上収められており、上段には知り合いによる評も書かれています。(写真①②)



『随齋詩鈔』①



『随齋詩鈔』②

例えば写真①の部分、己丑(文政十二(1829))年の元旦に作った漢詩「書窗筆硯且迎春…」について、「拙堂曰く「實為開卷第一之好詩」、つまり拙堂は「この詩は開卷第一(本を開いて一番最初に目に入る、の意か)に好ましい詩である」と褒めています。他にも「花亭」や「荷塘」「山陽」などの名前も見え、随齋の交流関係も垣間見えてきます。また、写真②の「看梅」のように拙堂の『月瀬記勝』にも収録されている漢詩も収録されているなど、随齋のさまざまな漢詩が読めて、さらにそこから彼の作詩活動が伺える一冊です。

今回は、もうひとつの随齋関係資料について紹介したいと思います。

## 参考文献

梅原三千・西田重嗣著『津市史』第三卷(津市役所 昭和三十六(1961)年)、近藤春雄著『日本漢文学大事典』(明治書院 昭和六十(1985)年)、浅野松洞著『三重先賢傳』(東洋書院 昭和五十六(1981)年)、市古貞次〔他〕編『国書人名事典』第四卷(岩波書店 平成七(1995)年)、齋藤正和著『齋藤拙堂傳』(三重県良書出版会 平成五(1993)年)、松田豊幹編『草陰冊子』第十四卷(三重日報社 明治二十五(1892)年) (他)

# レファレンス事例集

## Q 津の御殿場にあった遊園地について知りたい

A 『'89 津市市制施行100周年記念誌』には『1929(昭和4)年に民間資本によって御殿場海岸遊園地が完成した。これは、海水浴・楯干・潮干狩りができるほか、県下唯一の飛行塔やベビーゴルフ場・小動物園・貸別荘などの施設を持つ総合海浜遊園地であった。』との記載があります。

- ・「津の今昔」(遊動飛行機、楯干風景などの写真の掲載有)
- ・「津市史 第4巻」
- ・「目で見る津市の100年」

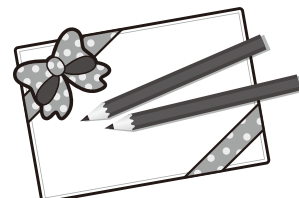
## 図書館員のひとりとごとの

### 【メッセージカード】

返却ボックスに返された絵本の間にかわいい四角のメッセージカード。

そこには「おかあさんへ。ありがとう」のメッセージが。幸いひとりの方が返された2冊の本の間に挟まっていたので、誰が返却されたのかわかりました。このメッセージを次に来館されるときにお返ししようと思います。

やさしい気持ちが行き場をなくしてしまうのはかわいそうですから。



## ～図書館員のおすすめの本～

『観察が楽しくなる美しいイラスト自然図鑑 野菜と果実編』  
 ヴィルジニー・アラジディ／著 エマニュエル・チュクリエル／画 泉恭子／訳 創元社

図鑑のイラストは製図用のペンで線画を描き水彩でみずみずしい色をつける、伝統的な博物画の手法を用いて描いています。エマニュエル・チュクリエルは科学的なデッサンを得意とする気鋭の挿絵画家です。野菜と果実編では100種以上の食べられる植物を紹介しています。色合別に描かれた果実からは香りも漂ってきそうな美しさです。ぜひ図鑑を開いて味わってみてください。(動物編・樹木編・昆虫編のシリーズもあります)

『まぼろし写真館』 福明子／作 小泉るみ子／絵 学研

たとえ見るもの全部がまぼろしでも、みんなに最高の写真をとってあげるのが、ひろむじいさんの仕事です。「まぼろし写真館」にやってくるお客さんと、ひろむじいさんとのあたたかくて不思議なお話です。



## 開館時間・休館日などのご案内

館(室)名及び所在地	開館時間	館(室)名及び所在地	開館時間
津図書館 ☎229-3321 西丸之内23-1 津リージョンプラザ内	平日/9:00~19:00 土・日曜日、祝・休日/ 9:00~17:00	安濃図書館 ☎268-5822 安濃町東観音寺418 津市サンヒルズ安濃内	10:00~18:00
久居ふるさと文学館 ☎254-0011 久居東鷹跡町2-3	平日/9:00~18:00 土・日曜日、祝・休日/ 9:00~17:00	きらめき図書館 ☎292-4191 香良洲町2167 津市サンデルタ香良洲内	9:00~17:00 (7-8月の平日は18:00まで)
ポルタひさいふれあい図書室 ☎254-0464 久居新町3006 ポルタひさいふれあいセンター内	平日/10:00~21:00 土・日曜日、祝・休日/ 10:00~18:00	一志図書館 ☎295-0116 一志町井関1792 津市とこどもの里一志内	10:00~18:00 (7-8月の平日は19:00まで)
河芸図書館 ☎245-5300 河芸町浜田782	10:00~18:00	うぐいす図書館 ☎262-5000 白山町二本木1139-2 津市白山総合文化センター内	平日/10:00~18:00 土・日曜日、祝・休日/ 9:00~17:00
芸濃図書館 ☎265-6004 芸濃町椋本6824 津市芸濃総合文化センター内	9:00~17:00	美杉図書室 ☎272-8092 美杉町八知5580-2 津市美杉総合文化センター内	9:00~17:00
美里図書館 ☎279-8122 美里町三郷51-3 津市美里文化センター内	9:00~17:00	<b>休館日(全館共通)</b> 火曜日・毎月最終木曜日(館内整理日) 年末年始(12月28日~1月4日)	

※特別整理期間(年1回、14日以内)などで、臨時に休館することがあります。  
 詳しくは、図書館カレンダー、津市図書館ホームページなどをご覧ください。

津市図書館ホームページ及び携帯版ホームページ <http://www.library.city.tsu.mie.jp/>



携帯電話QRコード

## 本の返却は期限内に

### ようこそ図書館へ 第23号

発行日/平成30年2月1日 編集及び発行/津市教育委員会事務局 津市津図書館  
 三重県津市西丸之内23番1号 津リージョンプラザ内 ☎(059)229-3321